

CVV の出前講座にご意見、ご質問をいただき、誠にありがたく感謝いたします。

下記に回答をまとめさせていただきました。

内容につきましては、SEEE さまのメンバー会社の海外部門で、十分な資料をお持ちと思いますが、私たちがまとめましたものを、お送りさせていただきます。

ご一読いただきますれば幸甚に存じます。

- ① 今後、国内の公共投資額が減少していく中で、日本企業が海外進出を図っていくことは必然的かと思われれますが、その際に

A: 民間会社として海外で実績を上げていくために重要と思われるポイントを教えていただければと思います。

これが重要ポイントと云う回答は、現在まで、各企業で検討され実践されているので、ここで改めて云う点はありませんが、現在の日本の状況下で、日ごろ考えていることを述べます。

海外で実績を上げるためにはまず、日本の建設業界全体が海外工事に対する姿勢を変えて、より積極的に真剣に取り組むべき。建設業界の海外進出もいわば、日本の海外輸出であり、国全体で考えるべき問題で、建設業界は日本政府に海外工事受注時の実質的なサポートをもっと訴えるべき。

海外国祭工事は欧米流契約、仕様、基準、資格の基で行われているが、現在の状況下では、グローバル意識で日本方式も採用されるよう、産学官一体で働きかけてゆく位の事まで考慮する必要もある。

また設計施工案件は上流部分の設計も必要となり、現在も行われているが欧米業者との JV、或いは更に日本の発注機関、欧米コンサルタントと組む事なども考えるべき。

会社は海外関係部門のみでなく、企業全体として海外意識を持ち、全社員が海外工事に対する認識を持つように、全社的運動が必要。その上で各企業が現在行っている次のような事項を全社的に行うべきでしょう。

- 1 海外要員の教育と意識の向上
- 2 国際工事契約方式の検討 通常の方式以外の設計施工、ターンキー、BOT、PFI などの検討
- 3 徹底した、資機材の現地調達への考慮も含めた、工事金額低減化の検討
- 4 各国の情報収集と分析 企業の現地化、担当員が現地の人とミックスし人脈の整備
- 5 日本建設業界の持つ高度な専門技術（工事）の海外での活路の発掘

現状の海外工事受注は、25年ほど年間1兆円ペースで、06年、07年が約1.7兆円となりましたが、中東での約5千億円の受注が貢献しています。今ドバイでバブルが弾けて中東の受注が減少するとまた、1兆円ペースにもどります。

SEEE の若い皆様で、これからの日本建設業界で、海外工事の受注を飛躍的に延ばすよう努力いただきますようお願いいたします。

B: また、技術者として必要な資質は？ (20代、30代、40代、50代 各年代で教えていただければ幸いです)

通常の建設関係知識、技術力を持ち、施工能力を持っていることが望まれますが、ほかに
若い方 (20～30代): 健康、積極的で好奇心旺盛な性格、最小限の語学力 (英、仏、など)
熟年の方 (40～50代): 上記に加え、グローバルな視野、経営力、交渉力、契約・技術関係の
文章を読解・作成の語学力などです。

② 海外工事の醍醐味は何ですか？

特に海外では、1プロジェクトの工事範囲が大きく、工事金額が大きい大工事が多く、工事工種も
橋梁上部工その他の特殊専門工種もすべて含むため、広範囲の工事を施工し、経験できる。また、
日本でのいわゆる協力会社を介せず直接現地の会社、労働者を使って施工するので、本来の土木技術者
の業務を実際に直接行うことになり、貴重な経験が得られる。

さらに、資材、労働力の調達も大規模となり、時には他国から調達の必要もあり斬新な業務も経験する。
そのため、輸出入、為替、税務その他日本国内建設業務で経験する以外の多種多様の業務も加わって
くる。その上欧米契約方式であり、技術者能力以外に、マネジメント能力が重要になり、業務達成感
は大きなものとなる。国内で経験するより遥かに大きい責任と権限の基に業務を行うことになる。

実質的な点としては例えば

- 1 実質、甲乙対等業務の遂行が経験出来、さらに、川上を含む設計施工のプロジェクトを仕掛け受注に
成功することも可能。
- 2 文化、異民族の交流を通じてグローバルな知識が取得でき、人生が変わり (勿論良いほうに)
その国の人とも友人関係が生まれる。
- 4 若い技術者は基本的、総合的な技術力が身につく (国内業務に比べて)

③ 今後の世界の土木市場はどのように展開していくとお考えですか？

- 1 日本を含む先進国の公共事業は減少傾向 (建設から維持管理へ)
- 2 開発途上国の社会インフラ事業はまだ必要であり増大する
- 3 韓国、中国、インドなどの国が安価で受注する傾向があり、日本はその対策を検討するとともに
特にトンネル、大径間橋梁、地震対策、軟弱地盤、原子力発電などの特殊技術、工期、品質、信用
で勝負することが重要である。

現在当分科会で収集した文献についての相談です。収集した一覧 (約 60 件) をお送りいたします。

他により文献があればご紹介いただけますか。

文献に関しては、海外建設業協会に有効な文献があります。

また、国土交通省、JAICA、土木学会、各土木関係の学会、大学などで、発表、保管している文献があります。
これらは、直接コンタクトされてご確認されるとよいと思います。

また、欧米系契約の研究をされる場合は、Conditions of Contractに関する解説書が良いと思います。

以上よろしく願いいたします。